



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第五十七号〕

穀雨

四月二十日



国史跡齋宮跡指定三十周年

伊勢の神さまに奉仕した未婚の内親王・女王の齋王。その住まいとされる齋宮跡がこの春、国史跡指定を受けて三十周年を迎えました。

三十周年を祝うかのように、長年にわたって発掘した出土品の中から二六六一点がこのたび国の重要文化財に指定されることになりました。これほど大量な出土品が一括して指定を受けるのは東海地方では初めてのこと。主に飛鳥時代から平安時代までの磁器や陶器、木製品などです。つややかな光を放つ緑釉陶器や貿易陶器などの高級陶磁器類からは、決して質素ではなく、宮廷と同じように華やかな生活であったこと。雨乞いや長雨がやむよう祈る祭りに使われたとされる馬をかたどった土製の土馬は完成品はなく、どこか壊れているため、齋宮で祭祀が行われていたこと。平城京や大宰府などからしか出土していない官庁専用の特殊な硯などは、齋宮に役人がたくさんおり、重要な役所であったことを語っています。当初は神さまに仕える慎ましやかな暮らしを想像していましたが、三十年を経ると、大規模な役所をもつ、華やかな齋王の宮であったことが伺えます。

これらは四月二十八日から五月十日まで東京の国立博物館で展示され、全国的な話題となりそうです。

雨が降って百穀を潤すという穀雨。やわらかな春雨が多い時期です。齋宮跡の発掘はちょうどいつきの宮歴史体験館“の東にある大型バス駐車場あたりで行われており、道路からも見えます。田畑を耕す横で、土を掘り返す発掘現場。何百年ぶりに掘り出された昔の土が春雨に濡れていました。

文 千種清美

